

令和5年度 厚生労働省保険局
「かかりつけ医と専門医、保険者の
協働による予防健康づくり事業」

三重県保険者協議会
名張市

3つの柱 地域共生社会・地域包括ケアネットワーク推進に向けた一体的展開

三重県
保険者協議会

(名張市)

① 医師会等との情報連携支援

医療を切り口に
医療と地域をつなぐ
ウェルビーイングへつなぐ

医師会等（名張市在宅支援実務者会議構成団体※）・保険者・リンクワーカーの情報連携による社会生活面の支援・生活習慣病の重症化予防

※名賀医師会、伊賀歯科医師会、伊賀薬剤師会、
名張市立病院、名張市訪問看護ステーション連絡会、
三重県介護支援専門員協会伊賀支部

○時期：令和5年7月1日～令和6年2月28日

○対象：全世代の住民

○支援の流れ：

生活のしづらさを抱える患者・住民に接した名張市在宅支援実務者会議の構成団体が、本人・家族へ支援依頼の必要性を説明し、同意を得る

→事務局 地域包括支援センター（全世代包括支援）へ相談支援依頼のFAX送信

→リンクワーカーを通して本人・家族への支援つなげる

○カンファレンス：情報共有、検討（1回/2月）
メンバー／医師会医師等、名張市立病院（医師、看護師、栄養士、地域連携室等）、社協等、保険者、事務局

(名張市)

② リンクワーカー研修

支援の受け手担い手の垣根を越えた
地域共生社会の推進に向けて
～人間中心性・エンパワメント・共創～

(1) ステイホームダイアリー (studio-L)
交換日記の活用で新たな仲間づくりと資源創出めざす
○対象：地域住民 約60名
○内容：3名1組の交換日記、対面での情報交換、ワークショップ、現地実習等の開催（全7回程度）、資源の位置情報化作業、処方先ヒアリング、多職種連携と市民連携の勉強会、社会的処方を取り入れたモデルケースづくり

(2) できることもちよりワークショップ (草の根支え合いプロジェクト)

困りごとを抱えた人を支えるネットワークづくり

○対象：地域住民、まちの保健室、社協、市職員 等

○内容：ワークショップ（2回程度）

(3) コミュニティコーピング (コレカラサポート)

社会的孤立を解消する協力型ゲーム活用の研修

○対象：地域住民、まちの保健室、社協、市職員 等

○内容：地域展開（随時受付 20回程度）

認定ファシリテータフォローアップ研修（2回程）

※認定ファシリテータ：まちの保健室、保健師、相談支援包括化推進員、社協職員

(三重県全域)

③ 社会的処方のネットワークプラットフォーム整備

“自治体・分野・職種を越えたつながりづくり”
“支援者の支援ネットワーク”

- (1) 「みえリンクワーカー研修」(全3回)
- (2) 「アボカドを育てる会」(1回/月)
- (3) 社会的処方推進座談会 (4回程度)
- (4) 社会的処方推進アドバイザー派遣 (3市町)

○ネットワークへの参加呼びかけ

○有志コアミーティング（1回/月）

○複合的・広域的な連携強化（現場課題WS等）

○社会的処方関連の普及活動（SNS等の活用）

○情報共有・情報発信など相互啓発の活動

○アドバイザー候補：

堀田聡子氏（慶應義塾大学大学院教授）

近藤尚己氏（京都大学大学院教授）

長嶺由衣子氏（東京医科歯科大学大学院助教）

吉江悟氏（東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員）

西岡大輔氏（大阪医科薬科大学大学院助教）

山崎亮氏、西上ありさ氏（株式会社studio-L）

実践自治体（菟野町、名張市等） 等

早期介入による介護予防・孤立防止
地域包括ケアネットワークの強化

仲間・つながりから新たな活動創出
誰もが活用できる資源へのアクセス

県庁、市町の縦割り越えたつながり
県内中心のつながり構築と取組継続